



新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部ボランティアセンターは持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) の達成に向けた取り組みを強化しています。



新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部ボランティアセンター活動情報誌

Niigata Seiryō University

SEIRYO VOLUNTEER

2023-2024 Information Magazine
www.n-seiryō.ac.jp



社会に開かれた ボランティアセンターへ

SEIRYO

社会に開かれた



ボランティアセンターへ

CONTENTS

- 04 令和6年能登半島地震
新潟にいてもできる支援を～本学の取り組み～
- 06 安心安全な環境を目指して
学園周辺環境整備進行中！
- 08 ボランティアを頑張る青陵生をもっと知りたい！掘り下げたい！
SEIRYO FOCUS
- 10 STUDENTS VOICE
今だから言える「コロナ禍の光と影」
- 14 コロナ禍前を知らない学生たちが奮闘！
ぼらフェス 2023REPORT
- 18 ボランティアセンターの概要
- 20 学生ボランティアコーディネーター
「ぼらくと」の概要とメンバー紹介



イメージキャラクター
ぼらくトリオ

『SEIRYO VOLUNTEER』とは

『SEIRYO VOLUNTEER』とは、ボランティアセンター直属の学生スタッフである、学生ボランティアコーディネーター（通称：ぼらくと）が制作・発行する活動情報誌です。2014年に創刊した「ボラセンNEWS」を皮切りに、2019年から現在の形になり、年1回の発行を続けています。

ボランティアセンターに設置するだけでなく、中高生にも広く知っていただけるよう、年度初めのオリエンテーションやオープンキャンパス等でも配布しています。

また、『SEIRYO VOLUNTEER』は、本学HPからもご覧いただけます。郵送も受け付けておりますので、ご希望の方は、ボランティアセンターまでご連絡ください。

VOLUNTEER



今、私たちに「できること」を

令和6年 能登半島地震

新潟にいてもできる支援を～本学の取り組み～

この度の令和6年能登半島地震で被災された皆さま並びにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

新潟県内でも長岡市で震度6弱の強い揺れがあった他、新潟市西区では液状化による被害もあり、人的・物的影響も大きくありました。

被災された方々が1日も早く穏やかな暮らしを取り戻せますようお祈り申し上げます。



新潟市西区社会福祉協議会 災害ボランティアセンターでの活動

新潟県内でも液状化による被害の大きかった新潟市西区では、災害ボランティアセンターが開設され、本学ボランティアセンター職員も1月6日(土)から複数回にわたり、災害ボランティア受け入れや現地調査など、微力ながらセンター運営のお手伝いをさせていただきました。また、本学学生も1月19日(金)に現地にボランティアに入り、液状化により噴出した砂や泥を取り除く作業を行いました。

今回、現地ボランティアに参加した学生に感想を聞きました

自分に何かできることはないかと考えていた時、災害ボランティアの募集を見つけ参加しました。元々災害ボランティアに関心があったので、その気持ちが参加する後押しになりました。活動に参加して、まず被害状況を実際に目にした時、地震に対する恐怖を強く感じました。いつ自分の身にも訪れるかわからないので、今普通に生活出来ていることがどれだけありがたいことか考えさせられました。

活動を通して、ボランティアをしたいという気持ちがある人たちが集まることで、初対面であることや、年齢に関わらず、しっかりと連携を取って、被災者の方々に寄り添いながら活動が出来るということを実感しました。



酒井 美晴さん
社会福祉学科 2年



塩原 麻希さん
社会福祉学科 2年

青年赤十字奉仕団とは

本学では2014年に青年赤十字奉仕団を再結成し、より積極的に防災や災害救護活動に対応できるよう、日本赤十字社新潟県支部と連携し、団員の育成及び活動の活性化を図っています。

INFORMATION

日本赤十字社 新潟県支部

〒951-8127
新潟市中央区関屋下川原町 1-3-12
025-231-3121



学内募金・街頭募金

本学の青年赤十字奉仕団を中心に1月9日(火)～12日(金)に学内募金を、1月28日(日)に古町ルフル前にて、街頭募金を行いました。学内募金・街頭募金を合わせて、139,505円の義援金が集まりました。街頭募金では報道各社からの取材もあり、活動の様子を多くの方に知っていただく機会となっただけでなく、多くの方々の温かい気持ちに触れることができました。



▲今回の義援金は日本赤十字社新潟県支部へ全額寄付させていただきました。

被災地へ送る 救援物資の積み込み作業

能登半島地震の被災者を支援するために応援フラッグ作成と石川県珠洲市に配送する救援物資のトラックへの積み込み作業を行いました。現地に行って直接的な支援はできなくても、避難所生活の一助として役立てられれば、嬉しく思います。



東日本大震災から10年の歳月を追ったドキュメンタリー映画 「ただいま、つなかん」 上映会及び風間監督によるトークイベント



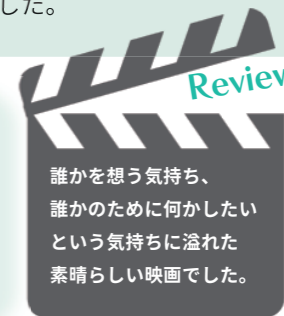
2月19日(月)に本学と連携協定を締結している日本財団ボランティアセンターとの共催で、映画「ただいま、つなかん」上映会及び風間監督によるトークイベントを実施しました。今回のイベントは、災害が多発している現代において、災害から復興まで人々がどのように助け合い、想いが連鎖してきたのかを学び、感じる機会になればと企画、実施しました。人と人とのつながりや誰かを想う重要性を改めて感じられる時間となり、参加した教職員及び学生からも多くの反響がありました。

風間 研一監督

PROFILE
大学卒業後、化学系専門商社に入社。その後、テレビ情報番組のADを経て文化工房へ入社。テレビの各情報・報道番組に出向のかたちで在籍しながら主に企画特集を制作し、年3～4本の企画特集を制作・放送。本作映画初監督。

映画「ただいま、つなかん」とは

宮城県、三陸リアス海岸の入江に佇む民宿「唐桑御殿つなかん」を舞台に、東日本大震災で被災し、海難事故で大きな喪失を抱えた女将の一代さんと、震災当時に学生ボランティアだった若き移住者や仲間たちが、ともに歩み積み重ねてきた10年以上にわたる歳月を追ったドキュメンタリー映画です。



誰かを想う気持ち、誰かのために何かしたいという気持ちに溢れた素晴らしい映画でした。



木村 実結さん
臨床心理学科 1年

1

月見草の会を復活へ 地域とのつながりを取り戻す

月見草植栽プロジェクト

本学園とつながりの深い「月見草を育てる会」の会長も務められていた、故小柳マサさんが愛した「月見草」の植栽を再始動すべく、ボランティアセンター中心に、新潟青陵幼稚園の園児たちをお迎えし、本学学生とともに、4月21日(金)にプランターに月見草の苗や種を植えました。

また、7月5日(水)には、学園の恒例行事だった「月見草の会」が4年ぶりに開催され、大学・短大の学生と学園の教職員が一緒になり、「手づくりステージ」で盛り上がりました。



月見草とは

6～9月の夕方から夜に花が開き、月明かりに照らされた姿が美しい花です。
新潟市出身の歌人・會津八一が歌に詠んだことで知られています。

2

園児や高校生、学生が集う 新たなフィールドづくりにチャレンジ

SEIRYO 芝生プロジェクト

本学園の環境整備活動の一環として、6月から2月にかけて、本学1号館横芝生広場の芝生を学生・卒業生・教職員延べ137名で整備しました。プロの完成度には及びませんが、芝を並べたり、切りながら溝を埋めたり、砂を撒いて隙間を埋めて定着しやすしたりと活動の中でも勉強になることが多くあり、良い汗をかきながら楽しく作業を行うことができました。今後、私たちが整備したエリアで園児や高校生、学生など多くの人に過ごしてもらえることが今から非常に楽しみです。



安心安全な環境を目指して

学園周辺の 環境整備進行中!

本学園では、青陵学園周辺の西海岸公園を整備し、本学学生や新潟市民をつなぐ、交流の拠点づくりを行うべく、新潟市のアダプトプログラム制度を活用し、「青陵の森と浜辺リンクプロジェクト」を始動しました。

これまでもボランティアセンターを中心に行政や地域の方々と連携し、大学周辺の松林の整備や植樹、海岸清掃等を行ってきていますが、そういった活動も継続しつつ、2023年7月より新たに一般社団法人 Smile Story 様、NPO 法人ウッディ阿賀の会様と連携し、大学周辺の松林の整備（ニセアカシアの伐採や除草作業等）を行っています。

整備後のことを考えることも活動の楽しいところだなと感じています

他団体の方々や世代を越えて交流することで、環境に対する知識を得て、木々の生態等、毎回学ぶ事も多くあります。自分たちが過ごす学園周辺の環境を整備することで、地域への関心や想いが芽生えるとともに、日々市民が安心安全に過ごせる裏には誰かが整備を行っているということにも気が付くきっかけとなっています。



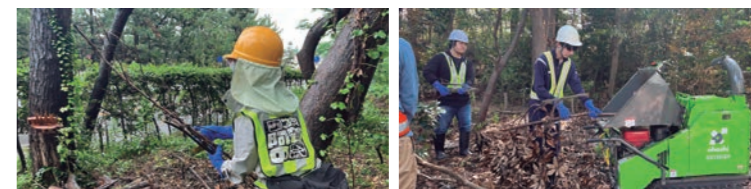
長谷川 舞さん
社会福祉学科1年

3

環境整備の プロフェSSIONALの方々とともに

松林の整備活動

6月9日(金)にボランティアセンターとの共催事業として、大学の必修科目である「地域連携とボランティア」の授業内にて「2023 SEIRYO CLEANUP DAY」と題し、大学前の松林の除草活動と海岸清掃を行いました。授業受講生だけでもなんと262名おり、当日は関係者を含め全体で約300名での作業となりました。その活動を皮切りに、NPO 法人ウッディ阿賀の会様と一緒に伐採した樹木の粉碎作業や除草作業などを本学学生のみならず、新潟青陵高校の生徒も交えながら、毎月2回作業を行っています。



INFORMATION
NPO 法人
ウッディ阿賀の会

〒950-3326
新潟市北区柳原1丁目6-18
090-2028-9076
info@woodyaga.com



4

私たちの生活を守ってくれている松林 大きく育つことを願って

西海岸公園の松苗の植樹

本学のキャンパスの近くを取り囲む関屋浜一体は、海風や海岸の砂などから住宅地を守るため、松が植えられています。

私たちは、2022年に地域の方々や連携し、幼松の成長を阻害してしまう雑草の駆除活動を行ったことをきっかけに松くい虫対策をはじめとする環境保全活動に取り組んできました。松林が私たちの生活を守ってくれていることを教わって以降、松枯れ問題を自分事として捉え活動しています。松林が機能するまで大きく育つには長い年月がかかるため、今後も成長を見守りながら、維持や管理の部分でもお手伝いできればと思います。



ボランティアを頑張る青陵生をもっと知りたい！掘り下げたい！

SEIRYO FOCUS

学生生活はボランティア活動と共にある！？

ボランティア活動は生活の一部だと話す学生に、
原動力や活動中での想いを
インタビューしました！

中澤 彩乃さん

社会福祉学科 福祉ケアコース 4年

いつもパワフルで、ボランティアにも全力な
中澤さんは、持ち前のフットワークの軽さと行
動力で、どこまでも突っ走るパワーが武器です。
学ぶ姿勢を常に持ち、人の役に立ちたい気持ち
をボランティアにも活かしています。



ボランティアが当たり前前の社会に

| ボランティア活動の原動力は何ですか？

「ボランティアの何が楽しいんだろう？」「なんで続けられているんだろう？」
と考えたときに、ボランティアを通じて、つながりができ、出会った方に会いに
行きたいという気持ちが強いんですね。自分1人ではできない経験をボランティア
が形にしてくれるから楽しいですし、だからこそやりがいを感じられます。それ
が活動を続けられている原動力かなと思います。

| 活動をする中で大切にしている想いを教えてください

私は、ボランティアは特別なことではなく、当たり前のことだと思っています。
その想いは私だけではなく、社会の中での当たり前になればと思っています。

まれに「ボランティアにたくさん参加していますすごいね。」と言われることが
あります。私は活動するほど、興味が湧き、とりあえずやってみようという気持
ちで参加していますが、そこで何をしたのかよりもボランティアに行くことだけ
が評価されてしまい、自分の想いと異なる受け取り方をされ、歯がゆさを感じたり、
周りの目が気になったりすることもあります。それは、おそらく自分の時間
を誰かのために割くことを良いことと捉えておらず、わざわざ行かなくてもと思っ
ている人もいるからだだと思います。でも、行った先で得られるものや自分に還元
されることってやっぱり行ってみたいと分からないじゃないですか。頼まれて参
加する場合でも、行ってみたら楽しかった、学びがあったという活動も多いです。
そのため、自分と違う考えを持った人の価値観や言動は社会勉強と思い、経験値
として自分のものにしようとする意識を持つことを大切にしています。ボランティ
アは誰もが当たり前という考えではなく、捉え方も人それぞれ違うからこそ、社
会人になってもつながりや想いを大切に持ち続けることを忘れず、これからも活
動していきたいですね。



Nakazawa's topics 中澤さんの今年度の活躍を一部ご紹介

「2023年度日独学生青年リーダー交流派遣事業」に 日本団として参画



文部科学省主催である「2023年度日独学生青年リーダー
交流派遣事業」に中澤さんを含む、全国より選ばれた10
名の学生・高校生と共に日本団として、9月12日(火)～
26日(火)の14泊15日で参画しました。

ドイツでは、青少年活動や支援事業に携わっている専門
家による講義やワークショップを通じて青少年支援の現状
や社会参画に関する知見を深めたり、青少年関連施設、ボ
ランティア団体等の訪問、ドイツから日本に派遣される団
員とのディスカッションを通してお互いの社会参画やリー
ダーシップに対する考え方を学びました。ドイツの学生と
の意見交換や青少年関連施設の訪問など、国を越えた若者
の社会参画について考える機会となりました。

「日本福祉教育・ボランティア学習学会 第29回新潟大会」に 学生代表として登壇

日本福祉教育・ボランティア学習学会主催である「日本
福祉教育・ボランティア学習学会 第29回新潟大会」が11
月4日(土)・5日(日)に開催され、4日に開催された課題
別研究の中の「福祉教育はなぜ必要か～それぞれの立場か
ら考える福祉教育～」に学生代表として中澤さんが登壇し、
学生の視点で「なぜ福祉教育が必要なのか」ということを
ボランティアと絡めて発表しました。

また、その活躍が認められ、全国社会福祉協議会が発行す
る月刊誌内の「わたしにとってのボランティア～次世代に
よるボランティアのいま～」をテーマとする記事にて、学
生代表として掲載されました。



▲ 本学の学生も運営スタッフとして、
当日のサポートに携わっただけでなく、
本学の学長や教職員も応援に
駆け付けました。

「『大学生』のためのシンポジウムにいがた発SDGs」に パネリストとして登壇



一般社団法人地域創生プラットフォームSDGsにいがた
大学生分科会である「『大学生』のためのシンポジウムに
いがた発SDGs」が2月15日(木)に開催され、パネリス
トとして中澤さんが登壇しました。様々な分野で活動する
若い世代の皆さまと一緒にSDGsに関する想いや考え、こ
れまでの活動の体験談や学生ボランティアコーディネー
ターとしての取り組みなどを中心に、新潟で活動する大学
生の生の声を伝えさせていただきました。

SDGsについて難しく捉えるのではなく、好きなことや
興味のあることを絡めて身近なところから取り組み、より
良い社会を目指したいと感じる機会となりました。

STUDENTS VOICE

今だから言える「コロナ禍の光と影」



今まで当たり前できていたことができなくなり、人とのつながりが希薄化するなど社会情勢が大きく変化したコロナ禍において学生生活がスタートした4年生。

思い描いた大学生活を送れない、そんな逆境でも常に前を向いて後輩たちを引っ張り、温かく支えてくれました。そして、学業だけでなく、ボランティア活動でもその力を遺憾なく発揮し、後輩からも慕われる先輩像を体現してくれた4年生だからこそ分かりあえるお互いの胸の内や、学生だから言える当時の困難さを語ってくれました。

石田 瑠奈さん
社会福祉学科
ソーシャルワーク
コース4年

1年次より、環境美化活動やボランティアセンターの広報活動にも精力を注いでいる。

卒業後は、県内の製造業に携わり、学生時代に学んでいた福祉とは別の道へ。



佐々木 亜友さん
看護学科4年

青年赤十字奉仕団の活動に力を入れ、2年次には、青年赤十字奉仕団の新潟県の会長を担う。

卒業後は、県内の保健師として多くの住民の方の健康の保持増進を支える担い手に！



坂井 真帆さん
社会福祉学科
子ども発達サポート
コース4年

フードバンクにいがたでの活動に力を入れ、外部団体と連携しながら、学生を取りまとめた。

卒業後は、特別養護老人ホームにて介護職としてケアワークの道へ。



変化だらけの学生生活の始まり

石田さん：コロナ禍は孤独との闘いでした…。1年生の頃は大学にも行けず、ただただ講義とその課題をこなすだけの日々で、友達を作るのも時間がかかりました。人見知りということもあり、会えてもなかなか話しかけられず、コロナ禍で講義でも話す時間が制限されていたので、打ち解けるのに苦労しました。

佐々木さん：私は、実習前後の活動制限などがあり、ボランティアに行きたいと思っ

ても、行くことができませんでした。また、学生ボランティアコーディネーターとして、組織として動いているので自分の都合で動けない部分もあり、制限のある中で、周りをどう巻き込んでいくのか、どう引き継ぐのか悩む日々が続き、先輩が経験してきた活動を当たり前に参加できず辛い期間でした。そのため、その分を取り戻そうとオンラインでの研修に参加し、少しでも学べるように努めました。

一体感を持って難局に挑む

坂井さん：私たちは、コロナ禍では外で活動ができない分、自分たちの活動に目を向け、定例ミーティングの見直しや「planning project」と名付け、企画活動の機会を設けました。ここで、自己研鑽が行えたことが土台となり、今の私の基礎となっているのかもしれない。小さな活動でも全て自分の身となり、経験値に変わると考え、モチベーションを維持し、活動していました。大変なことも多かったですが、今はボランティア活動が今まで通りできるようになり、

石見 萌さん
社会福祉学科
ソーシャルワーク
コース4年

ボランティアを行うだけでなく、定例ミーティングの進行や企画活動などにも携わる。後輩を支え、寄り添い、ほらくと全体を支える存在。

卒業後は、埼玉県で障がい者支援の道へ。



田中 鈴乃さん
社会福祉学科
子ども発達サポート
コース4年

中央区自治協議会の活動に力を入れ、学生代表として、地域の方の中に交じり意見を述べる。

卒業後は、県内の保育士として、子どもたちの成長に携わり、保護者のよき理解者に！



この苦しい時期を一緒になって乗り越えたからこそ、改めて対面で人と会える大切さや人の想いに触れる機会の重要性を感じています。活動の内容も大切ですが、どのような人と出会い、どのような想いを持った人と活動ができるのか、それがボランティアの魅力であり、価値であると思います。ともに頑張った仲間の絆は一生ものです。

石見さん：オンラインでの定例ミーティング、企画、研修では意思疎通を行うことが大変でした。その分、事前に準備することの大切さを学べたと思います。物事の準備の段階、裏方として動いてくださっている方の苦労や大変さが分かり、その人の立場になって声掛けができるようになりました。そして、私たちが活動できているのは気遣いと思いやり、責任感で動いてくれている人がいるからこそです。だからこそ、想像力を働かせてその思いやりに気づき、感謝できる人になれるよう意識していました。

コロナ禍に入学し、先が見通せない状況が続いたこと、日々変化する社会状況への対応が求められたことなど数多くの不安が



ありました。また、活動する中で自分の行動が組織や何かの役に立っているのか葛藤する日々でした。そのような状況下でもオンラインで顔を合わせる機会を増やし、「今だからこそできること」を一緒に考え、ともに頑張る仲間へ何度も何度も背中を押してもらいました。同時に、活動できることが当たり前では無いこと、多くの方々に支えられ恵まれた環境にあることを日々痛感していました。

後輩へのメッセージ

石見さん：後輩の皆さんには、活動する中で温かい思いやりの気持ちを育み、活動を継続する中で生まれる人と人とのつながりや信頼関係の大切さをこれからもたくさん学んでほしいと思います。

また、これからは、後輩たち1人ひとりが楽しく、やりがいを持って活動できるよ



うに私自身も卒業生としてサポートしていけたらと思っています。活動していく中で、楽しいこと嬉しいことだけでなく辛いこと、乗り越えられるか不安になること、いろんな葛藤があると思いますが、その時は、1人で抱え込まず周りの人に相談しながらより良い方法を一緒に考えてほしいと思います！

石田さん：私は、ありのままの自分を受け入れ、自分を大切にしながら活動を続けてほしいと思います。もし上手くいかなかったとしても、反省は責めるものではなく次を良くするためのものだと考えることが大事です。頑張ったり挑戦したり一歩踏み出して行動に移していること自体が、本当に偉いしすごいことだと思っているので、失敗しても自分を責めるのではなく、できたことにも目を向けてほしいです。また、何かを頑張ったり、誰かを支えたりするのは自分に余力があってできることだと思うので、自分の気持ちに素直に向き合うことも必要だと思います。

また、それだけではなく、後輩たちには、今後も活動を継続するとともに、ボランティア活動の魅力を伝え続けてほしいです。私自身も卒業後も継続して携わり、今後も市民の1人として力になればと思います。

田中さん：私は、4年間の活動を通じて自



分1人では何もできないからこそ、仲間と情報共有をして進めていくことの大切さを実感しました。組織として動くうえでは、企画、運営、段取りや計画性が重要になってきます。学年が上がるにつれて実習や就職活動など忙しくなり、任されることも増えてきます。自分の気持ちや体調と相談しつつ、時には周りに助けを求めることも大事だと思っているので、コミュニケーションを取り合い、楽しみながら活動を進めてほしいと思います。これからの活動を応援しています！

坂井さん：私は、自分から起こした行動は自分の経験値だけでなく、体験として強く残り、そこから得られるものも多くあると思っているので、後輩たちにも、積極的に活動に参加してほしいと思います。活動中の振る舞いや、やるべきことが経験を積むうちに見えてきたり、一見関係ないと思うことでも、どこかでつながっていると感じたりする経験も多かったです。

また、学生のうちにボランティアを通じ

て、新しい環境に飛び込んでみることで、自分の強みを認識して自信をつけることができましたし、いつかチャレンジしたいと思っていた分野で経験を積むことができたことは大きな収穫でした。何かを始めるのは、とても勇気がいりますが、1歩踏み出すと、どんなことでも学びがあるので、新しい環境でも挑戦を続け、人として成長していけるように頑張りたいと思います！



今年も、10月28日(土)・29日(日)の2日間にわたり、行われた本学の学園祭「青空祭」。

今年の学園祭は、昨年同様サークル等によるステージ発表に加え、コロナ禍で行えなかった模擬店の出店や、学生の他に一般の方の入場も可能となり、大いに盛り上がりました。今回私たちボランティアセンターは「ぼらフェス2023」と題し、「フレッシュフードシェアカレーの販売」、「ボランティアセンターの活動紹介及び野外力検定体験ブース」、「青年赤十字奉仕団ブース」の3つのブースを設けました！

今回は、そんな「ぼらフェス2023」の様子をお届けします！

コロナ禍前を知らない学生が奮闘！

ぼらフェス2023 REPORT



ぼらフェス2023 メイン企画

FRESH FOOD SHARE CURRY

フレッシュフードシェアカレー

規格外野菜の活用で

食品ロス削減と農家さんを応援したい！！

今回私たちは、「フレッシュフードシェア」の一環で、一般社団法人 Smile Story 様、新潟市環境部循環社会推進課様とコラボし、規格外野菜を使った、食べられるのに捨てられてしまう野菜たちをおいしいカレーに大変身させて、青空祭限定で28日(土)のみ販売を行いました。また、1日みの SEIRYO 子ども食堂として小学生以下のお子様には限定30食無料提供も実施しました。

今年は、夏の記録的な猛暑の影響で全国的に野菜の出荷量が激減し、県内のスーパーでも価格が高騰しています。そのため、そんな農家のみなさんの応援になればと、今回の売上金の一部は農家さんに還元させていただきました。

フレッシュフードシェアを知っていますか？

「フレッシュフードシェア」は、農家や家庭菜園で余っている野菜などの寄付を受け付け、子ども食堂へ提供する取り組みです。一部の拠点の立ち上げにかかる物品等整備費には、市の補助金を使用されています。未利用食品を活用することで食品ロスを削減するとともに、子ども食堂への支援につながります。



規格外野菜の提供

フレッシュフードシェアカレーの販売にあたり、農家の方から規格外野菜の提供をいただきました。

今回は、山月 farm 様からなすとピーマンを、関根農園様からじゃがいもを提供いただきました。カレー作りの際に余剰分となった野菜たちも格安で販売し、早々に売り切れるほどの人気でした！



1日みの子ども食堂

県内で子ども食堂の運営にも携わっている、一般社団法人 Smile Story 様と協力し、200食のカレーを用意しました。

また、今回1日みの子ども食堂を開催することもあって、子ども用のカレーも準備しました。

当日は悪天候で客足が読めず心配でしたが、昼食時には、行列ができるなど大盛況となりました！



多くの野菜が煮込まれたカレーは、本格的でスパイシー！大人から子どもまで、大人気でした！



一般社団法人 Smile Story 代表 網本 麻利子様

「一般社団法人 Smile Story」は、本学卒業生であり、本学園の評議員でもある網本様が代表理事を務められています。

毎月開催される海岸清掃「スマイルクリーン」や、漁港と連携した未利用魚の活用など、多岐にわたる活動を通じて、人と人をつなぐ活動に力を入れています。

今年度、本学園と包括連携協定を結んだことを皮切りに、今回の学園祭を通じた活動のみならず、連携して活動を続けています。



INFORMATION

一般社団法人
Smile Story
〒950-2112

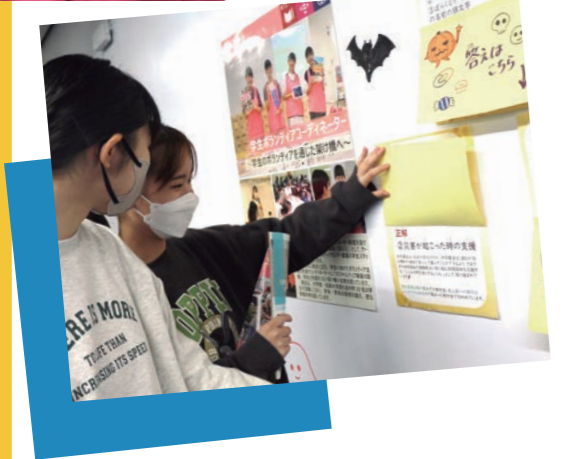
新潟市西区内野町 989





ボランティアセンター活動紹介及び 野外力検定体験ブース

本学のボランティアセンターやほらくとの活動の紹介に加え、野外力検定の体験を通して、いざという時に生きる知恵や技術を来場者の方々にお伝えしました。野外力検定の体験ブースは小さなお子さんや学生にとっても人気で、順番待ちができるほどでした！



ぼらフェス 2023の 舞台裏

今年、4年ぶりに通常開催となった学園祭。ところが、運営を担う学生はコロナ禍前のにぎやかなイベントを知りません。ボランティアセンターとして出展する「ぼらフェス2023」は4年生も学園祭のノウハウがほとんどない状況のため、手探りでスタートとなりました。



8月下旬	企画メンバー始動
	過去の資料を探し、情報収集するところから始まりました。何度も集まっては話し合い、意見交換する日々が続きました。
9月上旬	ブース内容決定・チラシ完成
	いよいよ出展内容が決定！担当を振り分け、具体的に準備を進めます。
10月下旬	備品準備・ミーティング
	空きコマや放課後を活用し、ほぼ毎日作業！メンバー全員一体となって準備を進めました。みんなでわいわい作業を進め、メンバー同士の仲も日に日に深まってきました。
10月27日(金)	前日準備
	前日は、学園祭準備で授業は休講。会場の飾りつけや、ロールプレイで最終確認です。
10月28日(土) 29日(日)	当日
	朝から、カレーの調理を行ったり、各担当に分かれて準備したりと来場者を迎えます。両日合わせて来場者が400名を越え、子どもからお年寄りまで多くの方に楽しんでいただけたようで、とても嬉しかったです。



青年赤十字奉仕団ブース

これまで本学の青年赤十字奉仕団として行ってきた活動をポスターにまとめて掲示したり、日本赤十字社新潟県支部からお借りした物品の展示したり、救急法の体験ブースとして、災害時などに骨折した際に家にあるものを使ってできる手当を伝えたりしました！応急処置などの大切な知識をはじめ、奉仕団の想いや取り組みについて楽しみながら知っていただけたのではないかと思います！



上村 桜子さん
看護学科 4年

彼女なくしてぼらフェスは始まらない！/ 「ボラフェス2023」リーダーインタビュー

私たち4年生も学園祭を経験したことがないという状況の中、当日までそれぞれのブースのメンバーで、どんな紹介をしたら分かりやすいか、どんな準備をしたら楽しんでもらえるかを考え、試行錯誤しながら準備を進めてきました。当日は、悪天候に見舞われ、客足が心配な場面もありましたが、両日通してたくさんの方に来ていただくことができました！そして、学年学科関係なく、準備から当日まで全員で協力したことで学生の仲もグッと深まりました。ボランティアセンターやほらくとの活動を周知していくことも学生ボランティアコーディネーターの役割なので、私たちの活動や思いを知っていただく機会になっていれば嬉しいです。お越しいただいた方、関わってくださった皆様、本当にありがとうございました (^ ^) /



VOLUNTEER CENTER

ボランティアセンター

本学ボランティアセンターは、ボランティア活動に関心がある学生とボランティアを依頼したい団体とを丁寧につなぎ、サポートしています。また、近年は、青陵学園として大学生、短大生のみならず幼稚園、高校も交えた活動を展開しています。ボランティアセンターとして社会情勢の変化に柔軟に対応し、地域社会と関係性を築きながら社会に開かれた活動を目指します。



ボランティアセンターの想い

1. 自ら積極的に動く学生を育てる
2. 社会との接点をつくり、社会を理解する
3. 豊かな心を育てる

ボランティアセンターの活動内容



ボランティア情報の提供

ボランティア活動を希望する学生に対し、学内のポータルサイトや掲示板等でボランティア情報の提供を行っています。

また、同学園の幼稚園や高校とも連携した活動を行っています。



コーディネート

ボランティア活動に関心がある学生とボランティアを依頼したい団体とを丁寧につなぎ、サポートしています。また、学生のボランティア活動前の不安などの相談にも応じています。



ボランティア活動

災害時の支援活動、共同募金、福祉施設、病院、地域の中でボランティア活動を行っています。他にも、学習支援、青年赤十字奉仕団活動等があります。



調査・学術的研究

ボランティア活動における学生ニーズ調査を行い、時代に合わせたサポートや情報提供を行っています。



イベントや研修会の企画運営

ボランティア活動を始めたい学生や、ボランティア活動に磨きをかけたい学生の為に様々なイベントの企画・運営を行っています。



学生ボランティアコーディネーターの養成

学生と同じ視点でコーディネートができる学生スタッフを養成しています。

また、ボランティア活動の企画や日頃のコーディネートを行い、主体性・人間性の向上を目指します。

今年度の活動紹介



INFORMATION
NPO 法人 みどりの森
〒950-0983
新潟市中央区神道寺 2-4-24

HP



「認知症になっても、暮らしやすいまちへ」

オレンジ ガーデニングプロジェクト

NPO 法人みどりの森様と連携し、「認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで創っていこう」という思いを共有し、全国各地でオレンジ色の花を咲かせる認知症啓発活動である、『オレンジガーデニングプロジェクト』にボランティアセンターも参加させていただき、9月の世界アルツハイマー月間に向けてマリーゴールドを育てました。また、この取り組みの一環として、『認知症サポーター養成講座』を8月に本学にて実施し、認知症を引き起こす病気や症状、周囲の支援の仕方や関わり方など「認知症」について理解を深めました。

「現代に必要な対話を生み出す」

KP 法実践講座

9月22日(金)に川嶋直様をお招きし、紙とペンを使ったアナログなプレゼンテーションやえんたくんを用いたコミュニケーション技法を学ぶ実践講座を本学と連携協定を締結している日本財団ボランティアセンターと共催で開催しました。

講師の川嶋様の軽快で惹きつけられる話術やプレゼンテーション方法には、学ぶものが多くあり、みっちり対話を行ったり、自分の考えを言語化したりという場が少なくなってきた昨今、学生間の交流も多く持てる良い機会となりました。



PROFILE 川嶋 直様

公益社団法人日本環境教育フォーラム 主席研究員。

KP 法(紙芝居プレゼンテーション)の第一人者であり、えんたくん(対話促進ツール)の開発者。

HP



「想いの輪をつなぐために私たちができること」

優秀レポートに採択



「自由な発想と行動力」によって社会貢献活動を行っている学生ボランティア団体を対象とした、「学生サポートセンター 第21回 学生ボランティア活動体験レポート」にばらくととして出させていただいたレポートが優秀レポートに選ばれました。学生ボランティア団体の代表として表彰されただけでなく、本学のボランティアセンターとばらくととの紹介もさせていただきました。いろいろなお縁から、松苗の植樹やニセアカシアの伐採や伐木の粉砕など松林の整備にも携わらせていただいておりますが、地域の環境問題を何とかしたいという人の温かさ、誰かと一緒に活動をすることの楽しさ、地域の生活を守る手伝いができる嬉しさを日々感じており、今後も地域の環境を守る力になればと思っております。

学生ボランティアコーディネーター

VOLACT

ぼらくと

本学では、学生ボランティアコーディネーターという制度を設けており、“Volunteer (ボランティア) + Act (行動する)” 通称『ぼらくと』としてサークル活動ではなく、ボランティアセンター直属のスタッフとして活動しています。2013年4月に発足し、2024年で11年目に入ります。

『ぼらくと』は東日本大震災でボランティアバスを出した際に「私たちにできることは何だろう。」「一緒に活動する仲間をもっと増やしたい。」という想いが生まれたことをきっかけに学生から学生にボランティアの魅力を伝えられる組織を作ろうと発足しました。学生と同じ視線に立ち、学生に向けたボランティア活動の充実やコーディネーターとしてのスキルアップ事業の開催、学生と外部をつなぐ役割を担っています。



VOLACT の使命

1. ボランティアの**魅力**に気づく学生を増やす
2. ぼらくと自身の**人間力**を磨く
3. 地域との**信頼関係**を大切にする

VOLACT の VISION Speed · Passion · Challenge

～ぼらくとが変える未来～

Speed

日々の変化する
社会情勢を見逃さず、
先を見て行動する

Passion

社会を良くしたい
という熱意

Challenge

一歩踏み出す

VOLACT の日常活動をご紹介



ボランティア活動のサポート

学生に満足度の高いコーディネートができるように、ボランティアや研修会、学外の活動へ積極的な参加をし、スキルアップを図っています。また、時には一緒にボランティア活動に参加したり、アドバイスをしたりなどのサポートも行っています。



定例ミーティング

月に2回定例ミーティングを行い、情報共有や活動報告、審議などを行い、1人ひとり意見を出し合う機会も大切にしています。

通常はオンライン形式ですが、年に数回対面形式でも実施しています。



広報活動

主に「SEIRYO VOLUNTEER」というボランティアセンターの活動情報誌と Facebook、Instagram にて広報活動を行っています！

新鮮なうちに届けるべく、生の声を大切にしています。皆さんもぜひチェックしてみてください。

任命までの流れ

01

周知・活動紹介

ぼらくとのことを周知するために新生生の必修授業や新入生歓迎会にて募集を兼ねて活動紹介を行っています。



02

申し込み

募集要項を確認して加入の申し込みをします。

03

養成研修の参加

ボランティアセンターの役割、学生ボランティアコーディネーターを務める上での知識・技術などを学びます。



04

任命式

養成研修の参加を経て、最終的に意思確認を行い、正式に学生ボランティアコーディネーターとして任命され、センター長から任命書が授与されます。



ぼらくとについて 楽しく学ぼう、理解しよう

学生ボランティアコーディネーター養成研修

ボランティアセンターの役割や学生ボランティアコーディネーターとしての心得など基本的な知識・技術を学び理解を深めるとともに、メンバー同士の交流を深めることを目的に学生ボランティアコーディネーター養成研修（通称：ぼらくと研修）を年に2回行っています。



共に活動する仲間と 楽しいイベントも開催！

クリスマス会兼親睦会

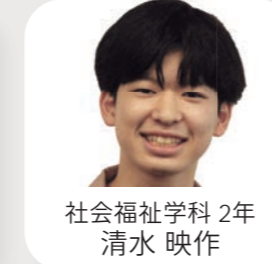
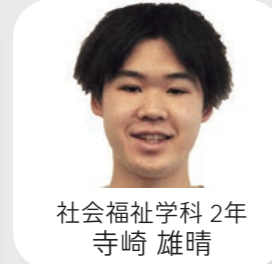


学生ボランティアコーディネーターの人数が大きく増えた今年度は、学生企画のクリスマスイベントを開催しました。お菓子作りや、プレゼント交換などのレクリエーションを通じ、楽しむだけではなく来年度に向けた計画も含めて意見交換を行いました。班ごとに協力してお菓子作りをする様子や、プレゼントを和気あいあいと交換する様子が見られ、仲がより深まりました。



VOLACT

2023年度 学生ボランティアコーディネーター 『ぼらくと』メンバー紹介





場所 / アクセス



～編集後記～

平素より本学ボランティアセンターの活動や取り組みにご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

今年度は、対面での活動が増え、リアルな学びを楽しそうにしている姿を多く見かけ、改めて対面で関わる、話すという部分は非常に大切であるということを感じた年でした。今後も、ボランティアを通じた出会いを大切にしながら、歩みを進めてまいりますので、引き続き、応援のほどよろしくお願いいたします。

学生ボランティアコーディネーター『ぼらくと』一同

学校法人 新潟青陵学園
新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部
ボランティアセンター

〒 951-8121
新潟市中央区水道町1丁目 5939 番地
TEL : 025-266-0189
FAX : 025-230-7751
MAIL : vcenter@n-seiryō.ac.jp
WEB : <http://www.n-seiryō.ac.jp/>



NIIGATA SEIRYO



お越しの際は、
QRコードをご参照ください。
(Google MAPsが開きます。)



新潟青陵大学・
新潟青陵大学短期大学部
公式 HP



本学ボランティアセンター
公式 Facebook



本学ボランティアセンター
公式 Instagram

